

「ソウルYWCAとの協働準備プロジェクト」

その目指したものの、歩みの抄録

2013年8月

作成 2013年度ソウルYWCAとの協働準備プロジェクト

I はじめに

かねてからの念願であった「ソウルYWCAと神戸YWCAの協働」に向けてプロジェクトチームが立ちあがったのは、2008年のことである。それまで幾度か、有志が訪問してきたが、ソウルYWCAの代表者との話し合いがまとまり、2008年11月にはソウルYWCAのメンバーを神戸YWCAに迎えることとなった。まず、顔と顔を合わせて親しくお互いを知ることから始めたいと考えた。

韓国と日本とは、長い歴史の中で、深いつながりを持ち続けている事は言うまでもないことだが、かつて日本は韓国朝鮮を、武力を背景にして侵略支配しつづけた負の歴史も忘れてはならないと思う。一方、私たちは、どれだけ韓国の歴史や文化について知っているだろうか。交流を始めるためには、お互いの歴史や文化や思想についてあらかじめ学んでおくことも必要不可欠であり、それらを踏まえたうえでお互いに理解と協力をどう創りだしていくかが課題であった。「ソウルYWCAと神戸YWCAの協働」を生み出すために草の根で手と手をつなぎ、共通の願いを分かち合っていくこと、そこからYWCAのメンバー同士として、これまで以上に深い連帯が生まれ新しい活動が始まっていくことを期待して、プロジェクトはスタートした。

ソウルYWCAとの関係は、のちにソウルYWCAスタッフとなった金孝貞さんが、1989年に神戸YWCA学院日本語科に留学して来たことがきっかけである。以来、神戸YWCAとソウルYWCAとの間で、青年レベルの交流が続いていたが、1995年阪神・淡路大震災の年を最後に、交流は途絶えた。しかし、2006年3月、神戸YWCAで85周年記念行事として韓国語スピーチコンテストを開催したことにより、交流が再開した。ソウルYWCAは2006年第1回韓国語スピーチコンテストにスタッフのパク・ウンギョンさんを、翌年、第2回コンテストにはホン・グンピョさん（理事）、キム・スンヒさん（副会長）を派遣、ホンさんは審査員の役割を担ってくださった。また、同年3月末には、学院外国語コース企画の「ソウル女性交流の旅」（参加者14人）を受け入れ、ソウルYWCA活動紹介・交流会、市内初等学校見学、会員宅ホームビジットなどお世話いただいた。その中で、ソウルYWCAより、協働でプログラムをしようとの誘いを受けた。その後このプロジェクトを立ち上げ、互いのYWCAの活動を学び始めた。

この抄録は、今後も姉妹YWCAのような交流をもち、協働を続けていくためには、互いのメンバーが変わっても引き継ぎがスムーズに行われ、プロジェクトが次のステップに進展するよう、私たちの意向を文書化して伝えるべきだと考え、過去のプロジェクトの活動記録をまとめたものである。

II 活動の記録

2007 年度

- ・3月 ウォン・ヨンヒさん、チ・ボギムさん、ソ・ドンスクさん（職員）来神。
活動の方向について話し合い、「平和構築のため、互いに訪問しあい、交流しながら協働できることを模索していこう」ということになった。
- ・同月、神戸YWCA「ソウルYWCAとの協働準備プロジェクト」立ち上げ。

2008 年度

メンバー：安藤時子、斎藤明子、鶴崎祥子、寺沢京子、平山芳子、松浦裕子、モーア アン、川辺比呂子（陪席）

- ・4月 ソウルYWCA「日本を知る会」結成される。
- ・近代韓日の歴史について学ぶための講座を企画。公開学習講座4回実施。「近代の朝鮮と日本一入門編①～④」講師：飛田雄一さん。参加者11～14人/回
自主学習会実施。「韓国の歴史」「竹島問題」「日帝時代の韓国 YWCA と日本 YWCA について」
- ・11月 ソウルYWCAからの訪問団（11人）を迎える。11月7日～11月11日
参加者：キム・チュンジャさん、マ・ソックさん、ウォン・ミョンスンさん、イム・イエファンさん、イ・ヨンギョンさん、ユ・ヨンランさん、チ・ボギムさん、キム・ヒョンジャさん、ムン・ジョンスクさん、チョ・ヨンウィさん、チェ・ボソンさん

今年度の共通テーマ「人権」に関するそれぞれの活動報告。YWCA/YMCAの合同祈祷週の礼拝と「ソウルYWCAのメンバーと共なる集会」を持つ。その集会では、神戸YWCAからは、「夜回り準備会」の野々村耀さんから野宿者を取り巻く社会情勢と問題、YWCAの野宿者支援について発題。その後、意見交換。ソウルYWCAからは、チ・ボギムさんによる国際協力部の活動紹介をしよう。トークセッションでは、今後お互いの「平和プログラム」に参加しあおうと決定。京都観光、ホームビジットや歓迎会等の交流会をもった。会員やプロジェクトメンバーのほかに韓国に関心のある方や、学習会に参加された方々からも多数プログラムに参加していただき、「協働」の輪が広がってきた。

- ・3月『ハングル講座』4回開催。講師：モーア アン 受講者：10人

2009 年度

メンバー：安藤時子、斎藤明子、鶴崎祥子、寺沢京子、平山芳子、松浦裕子、モーア アン、寺内真子（職員）

- ・4月 韓国に関する史跡訪問を目的として京都への遠足を実施。
- ・『まだまだ知りたい韓国』（文化一ホン・ミョンヒさん、在日問題一イ・ギョソップさん、独裁政治下の韓国について一キム・ジョンスさん。計3回公開講座実施）
- ・今年度のテーマを「女性の貧困」と決定。
- ・上記テーマにそっての公開学習会開催。生活援助員の現場を持ち、組合活動をしている立場より佐治雅子さんに、女性の世帯主（シングルマザー、高齢者）について田宮遊子さんに話を聞く。

- ・10月 ソウルYWCA訪問（10人）10月30日～11月3日。

参加者：平山芳子、斎藤明子、鶴崎祥子、モーア アン、西岡容子、重野妙実、増田昌子、ホ・ファヨン、松浦裕子、寺内真子（職員）

今年度のテーマにそって両YWCAのプレゼンテーション（発表：平山、寺内）が行われ、意見交換。その後以下の活動見学を実施。

ポンチョン総合社会福祉館にて、地域支援活動、DV 被害者支援活動などの話を聞く。また、グループに分かれて、板門店、ナムムの家を訪問。

以下はこの訪問についての報告（神戸YWCA機関紙 2009年12・1月号より抜粋）

（省略）韓国で「貧困」が最も現れているのは、就労する若い女性、女性が世帯主（母子家庭や単身者）、そして高齢女性である点で日本と共通する。韓国の女性たちの大学進学率は世界1位。高学歴にもかかわらず非正規雇用が増加の一途を辿り賃金も男性の6割程度、またいわゆる生活保護を受給している母子世帯は父子世帯の4倍にもものぼる。就労も育児も困難な彼女たちの行く末は自死や性売買へ。だが社会保障制度が追いついて行かない現状だとの発題を聞いた。

しかし、ソウルYWCAの地域センターの一つ、ポンチョン総合社会福祉館の活動を見学し、87年間の活動から女性の就業のためにプログラムを開発実践していること、また地域でのニーズを吸い上げて現場に合わせて具体的な草の根の活動を展開していることによって、国民に信頼された女性団体として、政府や自治体に、DV被害者のケアやシェルター事業を委託されて運営を支援されているのが分かった。

必死で自ら資金をつくりだし自らの手で活動を支えている神戸YWCAにとっては羨ましい限りだが、私たちもどのように活動資金をつくりだすか、また社会的貢献度の高い団体として認知されるためにはどうすればよいのかをあらためて考えさせられた。国際委員会を中心としたソウルYWCA会員のパワフルで暖かい歓迎と接待に感謝。回を重ねる毎に「協働」の形が見えてくるように思われる。

（平山芳子）

2010年度

メンバー：斎藤明子、鶴崎祥子、平山芳子、松浦裕子、モーア アン、寺内真子（職員）、秋月啓子（職員）

- ・今年度の共通テーマは「地域社会とマイノリティ」
- ・在日韓国朝鮮人の歴史について自主学習会をもつ。
- ・4月 神戸YWCA創立90周年のお祝いに、イ・ウォンヒさん、ウォン・ヨンヒさんが来神。
- ・6月 ソウルYWCAからの訪問団（10人）を迎える。6月18日～6月22日

参加者：イ・ウォンヒさん、イ・ヘンジャさん、ヒョン・ミョングムさん、キム・ミョンヒさん、キム・ミョンスンさん、パク・ソヒョンさん、チョン・ミョンヒさん、チョン・キョンスクさん、キム・キョンヒさん、イ・ソンヨンさん

震災記念館見学、ハナの会（在日朝鮮人の高齢者が通うデイサービス施設）を訪問し、意見交換。京都観光、ホームビジットや歓迎会、バーベキューでの交流会をもった。

以下はこの訪問についての報告（日本YWCA機関紙 2011 年 1・2 月合併号より抜粋）

（省略）2008 年～2010 年度、互いの国の文化、歴史を学び合い、共通のテーマを持って訪問しあってきた。平和構築のために、まずは顔の見える関係作りをしてきたが、すでに本音も言える関係ができてきた。そろそろ第 2 ステージへ向かう時がきた。

当初、両会で平和に関する活動を新たに見出していくことを模索していたが、各々の YWCA の活動を大切に、そこから互いに学びあえるよう、参加グループをコーディネートする働きをしようと、今秋、神戸 YWCA のプロジェクトで、役割を確認した。例えば、ソウル YWCA に介護活動に関心があるグループがあれば、介護事業部や会員活動のデイサービスやお弁当配達・食事会等に特化して訪問してもらう。野宿者支援のための夜回り活動に関心があるグループがあれば、受け入れる。もちろん受け入れ内容は、活動現場の人に任せる。また、神戸 YWCA から、ソウル YWCA 主催のキャンプに青年を送れば、彼らが戻ってきてから青年のグループが立ち上がるかもしれない。互いに学ぶものは多い。相互に情報交換、共有、協力しあいつつ、エンパワーされ、現在の活動がより活発になったり、新たな活動が生み出されたりする期待もある。そうしながら、互いの YWCA でできる平和構築をしていけばいい。

このような企画・コーディネートを含む進め方を共有するためにも、神戸 Y のプロジェクトの中心メンバーが来春ソウル YWCA を訪問する予定だ。（松浦裕子）

2011 年度

メンバー：川辺比呂子、斎藤明子、鶴崎祥子、平山芳子、モーア アン、松浦裕子、真砂裕子、真城賢順、寺内真子（職員）、秋月啓子（職員）

- 今年度は神戸 YWCA がソウル YWCA を訪問する番であったが 1 年休止し、今後の交流について議論するため中心メンバーがソウル YWCA を訪問する予定であった。しかし、3 月 11 日の東日本大震災発生、及び 11 月の全国会員集会開催のため年内の訪問は困難となった。その後、被災者支援プロジェクトとの協働で、一時避難と保養のために次年度 8 月に福島の高校生をソウルに送りたいとソウル YWCA に提案。福島 YWCA の協力、いくつかの助成金も得て国際ユースピースワークキャンプのプログラムをソウル YWCA との協働で企画。実施できることになった。高校生たちが交流の中で、平和で安心・安全な社会について学び合い、討議し理解しあっていくことを願った。

2012 年度

メンバー：川辺比呂子、斎藤明子、平山芳子、モーア アン、松浦裕子、真砂裕子、真城賢順、寺内真子（職員）、秋月啓子（職員）

- 8 月 6 日～8 月 12 日 「日韓国際ユース・ピースキャンプ」（韓国龍仁市）
高校生 13 人（うち、福島 9 人、神戸 4 人）、聖光学院教諭 1 人、神戸 Y プロジェクトメンバー 5 人（うちユースリーダー 1 人、職員 2 人）が参加

参加者：

（福島県）

遠藤万緒さん（いわき秀英高校 1 年）

佐久間明美さん（聖光学院高校 1 年）

野田花瑠香さん（聖光学院高校 3 年）
滋田菜々子さん（福島県立磐城高校 2 年）
寺島晴奈さん（桜の聖母学院高校 1 年）
永井駿人さん（福島県立福島高校 1 年）
斎藤興也さん（福島県立福島高校 1 年）
坂本華菜さん（福島県立福島西高校 2 年）
本多晴香さん（福島県立福島西高校 2 年）
（兵庫県）
岡田実優さん（啓明学院高校 3 年）
松下結香さん（啓明学院高校 1 年）
金井優花さん（神戸山手女子高校 3 年）
古川由理さん（兵庫県立神戸商業高等学校 3 年）

佐々木栄悦さん（聖光学院教諭）
モーア アン（会員）、真城賢順（会員）、瀬古値絵美（会員・ユースリーダー）、寺内真子（職員）、
秋月啓子（職員）

今年度は大きなプログラムを 1 つ持つことができた。被災者支援プロジェクトと合同で、夏休みにソウルYWCA主催の「日韓国際ユース・ピースキャンプ」に参加者を送りだした。数力所から助成と寄付を得て、放射能被害を受けている福島県の高校生へ保養の機会を提供するとともに、神戸の高校生も派遣し、福島・神戸・ソウルの若者たちの交流を深め、平和な未来の担い手育成のために力を注いだ。

2012 年 3 月末にソウルにて神戸・ソウル両YWCA代表数人による事前ミーティング後、参加者募集のために福島、神戸の高校を訪問。7 月には 8 月のキャンプに向けて福島と神戸にて事前オリエンテーションを実施した。プログラム終了後、10 月に報告冊子を作成し、神戸での報告会を行った。2013 年 3 月、福島YWCAの協力により、福島市の信夫教会にて報告と再会の時をもった。

キャンプには高校生だけでなく、聖光学院高校（福島県）の教諭、神戸YWCAのプロジェクトメンバー、ユースリーダー、を送ることができた。その時はYWCAの会員ではなかった参加者の中から、その後、YWCAの会員になり、積極的に活動に参加する人が生まれた。

Ⅲ おわりに

2013 年度は、2012 年度までの活動をふりかえり、抄録を作成した。今後、ソウルYWCAとの交流に関する窓口は、運営委員会が担うことになった。

2013 年度のメンバー：川辺比呂子、斎藤明子、平山芳子、モーア アン、松浦裕子、寺内真子（職員）、
秋月啓子（職員）

主催・お問い合わせ

神戸 YWCA ソウルYWCA との
協働準備プロジェクト

〒651-0093 神戸市中央区二宮町 1-12-10
tel. 078-231-6201 fax. 078-231-6692
e-mail: office@kobe.ywca.or.jp
www.kobe.ywca.or.jp

YWCA

(ワイ・ダブリュー・シー・エー
Young Women's Christian Association) は…

キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語
や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社
会参画を進め、人権や健康や環境が守られ
る平和な世界を実現する国際 NGO です。